

第15号

すだち

発行：高次脳機能障がい徳島家族会「すだち」
住所：徳島市新浜町3丁目
(岩垣方)1-60

～周りの理解が最大の補助具～

日本脳外傷友の会第13回全国大会が、「周りの理解が最大の補助具」をスローガンに9月28日ホルトホール大分(大分市)に会員、関係者300名が集い開催され、また大会前夜の27日午後6時から大分オアシスタワーホテルで全国交流会が開かれました。すだち「徳島家族会」から参加しました。

大会前日27日の交流集会には、当事者、家族ら291名が出席し、大会実行委員会を代表して現地大分県の菅嶋会長が歓迎のあいさつ、東川全国会長のあいさつに続いて、全国の参加者の紹介、アトラクションとしてミニコンサートがあり、最後に大分の特産物が当たる抽選も行われ、全国の会員の懇親交流会がひらかれました。

翌日28日は、ホルトホール大分で年次大会が菅嶋現地大会実行委員長のあいさつで開会し、来賓参加のあいさつに続いて、24年度当事者活動奨励賞の授与が行われ、脳外傷友の会「みずほ」の佐藤勇樹さんら4名が表彰され、つづいて東川会長から年次報告が行われ全員で確認されました。

その後、「高次脳機能障がいに関する国の支援」



として、厚生労働省精神・障がい保健課福生氏、文部科学省発達障がい支援専門官三輪氏、独立行政法人自動車事故対策機構本部長原本氏が取り組みを報告。続いて、「今までの高次脳機能障がい施策と今後の方向性」と題して蜂須賀研二氏(産業医科大学教授)、高次脳機能障がいへの理解を広める活動報告として、工藤修一氏(大分大学教育福祉科学部講師)の報告がありました。

お知らせ

徳島高次脳機能障がいリハビリテーション講習会開催

- 開催日時 2013年11月16日(土) 13時(受付12時30分)～16時(参加無料)
- 開催場所 徳島大学医学部臨床第2講堂(徳島大学病院2階)
- 講演
- ①「高次脳機能障がい者における職業リハビリテーションの現状と課題」
田谷 勝夫氏(独立行政法人・高齢・障がい者雇用支援機構-障がい者職業総合センター特別研究員)
 - ②「高次脳機能障がいの新たな診断方法の確立をめざして」
-びまん性軸索損傷に対する経頭蓋磁気刺激による誘発脳波の臨床応用-
河野 豊氏(茨城県立医療大学神経内科・准教授)

また基調講演として、「地域包括システムと高次脳機能障がい、～地域社会と連携して、私たちができること～」として飯島勝也氏(東京大学高齢社会総合研究機構准教授)講演があり、最後に「高次脳機能障がい者の就労実態と問題点」とする報告が田谷勝夫氏(障がい者センター特別研究員)が行い、大会アピールを發表しました。



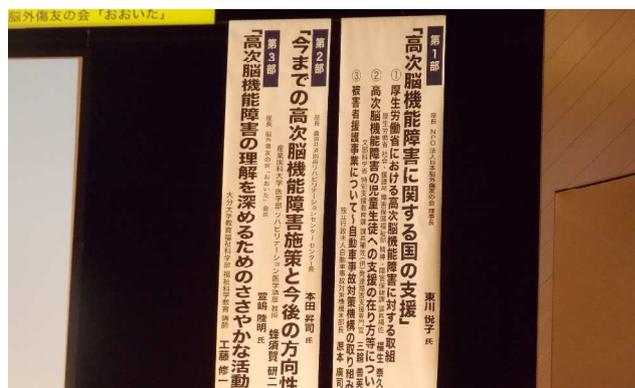
第13回全国大会(大分大会)は5部に分け開催されました。

第1部は、「高次脳機能障がいに関する国の支援」NPO法人脳外傷友の会理事長東川悦子氏を座長として、①厚生労働省社会・援護局障がい保健福祉部精神・障害保健課課長補佐福生泰久氏②文部科学省特別支援教育課課長補佐(併)発達障がい支援専門官三輪善英氏③独立行政法人自動車事故対策機構本部長原本廣司氏

第3部は、「高次脳機能障がいへの理解を深めるためのささやかな活動」として、脳外傷友の会大分会長菅嶋陸明氏を座長として、①大分大学教育福祉科学部福祉学科教育講師工藤修一氏の報告

第4部は、「地域包括ケアシステムと高次脳機能障がい～地域社会と連携して、私たちにできること～」

大分県高次脳機能障がい連絡協議会会長(諏訪の社病院)院長武居光男氏と大分県理学療法士会会長河野礼治氏を座長に、東京大学・高齢社会総合研究機構准教授飯島勝也氏の基調報告、シンポジストとして日本理学療法士会会長半田一登氏、日本作業療法士会会長中村春基氏、日本言語聴覚士会会長深浦順一氏、東京慈恵会医科大学付属第三病院リハビリテーション科教授渡邊修氏が参加



第2部は、「今までの高次脳機能障がい施策と今後の方向性」協共済別府リハビリテーションセンター。センター長本田昇司氏を座長として、①産業医科大学医学部リハビリテーション医学講座教授蜂須賀研二氏の報告。

第5部は、「高次脳機能障がい者の就労実態と問題点～日本脳外傷友の会の協力による実態調査を踏まえて～」

「高次脳機能障がい者長期継続雇用の実例」大分障がい者職業センター所長奥村博志氏を座長に、独立行政法人高齢・障がい・求職者雇用支援機構障がい者職業総合センター社会的支援部門特別研究員田谷勝夫氏、株式会社トキハキャリアクリエーション取締役隅井啓二氏



全国大会(大会アピール)

ここ大分の地で、九州で初めての全国大会が開催できましたことは、大変意義深いことで、ご協力いただきました各位の尽力に深く感謝いたします。

障がい者就労支援、障がい者スポーツ発祥の地として全国に知られた「太陽の家」が存在する大分。今後も、高次脳機能障がい者支援の拠点として、九州のみならず、全国に先進的支援情報を発信して下さるよう期待しています。

障がい者施策のエポック年となると期待される今年、障がい者差別解消法の成立、雇用促進法の改正等、国内法の整備がされ、国連障がい者の権利条約批准は目前に迫っていると期待されています。

東日本大震災・原発事故等の復興も進まない現状の中、少子高齢化の進展は待ったなしであり、社会保障の在り方が、議論されていますが、すべての人々が、共に生きる社会を実現するための施策は、一層の充実が望まれます。

高次脳機能障がいに関する支援普及事業は今年度新たに、その他関連障がい等の文字が加えられ、失語症等、情報コミュニケーションに困難のある方々への支援を含むとされました。

従来から私たちが訴えてきた小児高次脳機能障がい問題、身体障がいを伴う重度脳損傷問題、さらに画像所見で診断が困難なMTBI問題等、広汎にわたる脳損傷問題が存在します。介護者亡き後の問題も早急に取り組まなければなりません。

以下の点について集中してとりくみましょう。

《国や自治体にたいして》

- 1、高次脳機能障がい支援事業の恒久的施策化を要望します。

支援事業においては、とりわけ就労支援の拡大と充実、小児高次脳機能障がい支援の拡大、自立のための生活支援事業の整備、グループホームの整備・拡大に取り組んでください。

- 2、臨床心理士の国家資格化と診療報酬への連動を要望します。

高次脳機能障がい者・家族の支援のために臨床心理士の役割は欠かせません。心理士の国家資格化を推進することで、高次脳機能障がい支援が充実することを期待します。

《我々は》

- 3、ピアサポートを含む相談活動を充実し、本人活動の活発化を図ります。

- 4、自動車事故被害者救済事業を含め、各種事故・疾病予防にかかわる活動と連携し、脳を守る運動を推進します。

以上、地域の支援者、多くの障がい者団体とともに力を合わせて運動を推進することを確認し、本大会におけるアピールとします。

平成25年9月28日

日本脳外傷友の会第13回全国大会 in 大分参加者一同



ホルトホール大分（障がい者福祉センター）（13回全国大会会場）

定例会交流会の開催状況

定例会交流会を第三土曜日と確認し、毎月10時から2時間の交流会を開催してきました。各定例会交流会の内容を以下報告します。

① 2月会議(2月2日)

徳島家族会「すだち」のホームページ開設、パソコン操作の講習会が行われました。

② 3月会議(3月17日)

「かねぎん坂野たらいうどん」に当事者、家族ら22名と、香川の家族会から7名の参加があり総員29名で開かれました。交流会には、常に家族会が協力を仰いでいる北出先生にも出席もお願いしお話をさせていただきました。

③ 4月会議(4月20日)

会員の近況を話し合う。社会福祉士昼間氏の出席で会員間の近況をはなしあいました。交流会には17名が参加し、障がい者を抱える家族の悩み、又当事者の悩みが出されました。家族からは、老老介護で当事者の行き場がない問題。医療機関の問題などがだされました。当事者からは就労の問題、リハビリの課題等が出され、出席者で討論しました。社会福祉士からは、成年後見人制度についての説明がありました。

④ 5月会議(5月25日)

川柳に挑戦・・・13名が出席、川柳に挑戦しました。はじめに新聞投稿欄に投稿しているとして、岩垣会長から「川柳とは」の説明を受け参加者が挑戦しました。

～挑戦の中～

○笑われて 初めて気づく ご飯粒

○毎日の 暮らし支える ペースメーカー

○大好きな ビール控えて 健康に

○着てくれと 派手なスーツが 古希を責め

⑤ 6月会議(6月15日)

16名が参加しナスバ(自動車事故対策機構)の担当者から自動車事故対策機構の説明と、高次脳機能障がい者に対する支援の内容について学習しました

⑥ 7月会議(7月20日)

18名が参加し、6月会議に続いて、ナスバの担当者の参加を得て開かれ、高次脳機能障がい者に対しての行政の対応、特に障がい手帳について討論されました。

⑦ 8月会議(8月17日)

23名出席、石元氏(徳島県精神保健福祉センター所長)による、各種障がい者手帳の説明を受けました。精神手帳について参加者から意見・質問が出されました。

⑧ 9月会議(9月21日)

25名が出席、徳島大学病院中村和己氏(高次脳機能障がいコーディネーター)から、県内の現状について報告と説明を受けました。



高次脳機能障がい者に具体的支援施策を

高次脳機能障がい交流会議(三好保健所主催)

8月24日、スカイピア美馬市脇町小星(障がい者就労支援施設)に於いて、高次脳機能障がい交流会議(三好保健所主催)が開かれました。三好、美馬の保健所関係者、病院関係者等を始めとして、19名が参加、「すだち」の会からは岩垣会長等7名が参加し、交流と施設見学が行われました。スカイピアでは、障がい者就労支援活動として、「道の駅の清掃、セレモニー会館清掃、名刺・Tシャツへの印刷、藍の栽培、自動販売機の管理作業等」を行っています。

香川家族会(ぼちぼち)の交流会に参加

9月8日香川総合リハビリセンターで開かれた「ぼちぼち」(香川脳外傷友の会)の会議への参加呼びかけに応じて、「すだち」(高次脳機能障がい徳島家族会)からは当事者家族9名が参加しました。参加者らは、当事者を中心に現状を出し合い交流しました。・・・リハビリ施設の問題、学習会の開催、交流会の開催、就労支援問題等当事者・家族が抱えている問題・課題について交流が行われました。交流集会前段でギター演奏も行われました。



岩垣会長高次脳機能障がいの説明と支援の訴え

9月12日社会福祉協議会で開かれた、どりいまあサービス(理事長山口浩志氏)主催の研修会に、「すだち」岩垣会長が出席し、①高次脳機能障がいとは、②徳島家族会「すだち」の発足、③県下での周知活動(資料:季刊誌、リーフレット)、④活動支援、資金支援の状況、⑤他県の家族会との交流状況⑥その他取り組みについて関係者に説明を行い、支援と協力を訴えました。

支援研修会の開催

「高次脳機能障がい者を就労や社会参加につなげる支援」

10月5日、アステ徳島で、徳島県精神保健福祉センター主催の高次脳機能障がい支援者研修会が開かれ、滝沢学氏(神奈川リハビリテーション病院社会福祉士)による「高次脳機能障がい者を就労や社会参加につなげる支援」と題して講演されました。80余名が参加、「すだち」の会員も7名が参加しました。

高次脳機能障がい者のリハビリ～通所介護を通じて～

高次脳機能障がい研修会が10月9日、徳島保健所に於いて開かれ、「高次脳機能障がい者のリハビリ～通所介護を通じて～」と題して、北出修子氏(サンガリハビリプラザとくしま理事長)の講演があり、30名が参加者があり「すだち」会員も4名が参加しました。

活動日程経過

3月 6日	役員会議	8月17日	定例交流会議
3月17日	御所うどん交流	8月24日	三好保健所主催高次脳機能障がい交流会
4月 4日	役員会議	9月 8日	香川高次脳機能障害交流会議
4月20日	定例交流会	9月12日	社会福祉協議会どりいまあサービス研修会
5月 9日	役員会議	9月16日	役員会議
5月25日	定例交流会議	9月21日	定例交流会議
6月 3日	役員会議	10月5日	高次脳機能障がい支援者研修会
6月15日	定例交流会議	10月 9日	高次脳機能障がい支援関係者研修会
7月10日	役員会議	10月22日	役員会議
7月20日	定例交流会議	10月25日	高次脳機能障害支援関係者研修(美馬)
8月 6日	役員会議		

資料 (障がい者総合支援法)

(趣旨) 地域社会における共生の実現に向けて、障がい福祉サービスの充実等障がいの日常生活及び社会生活を総合的に支援するために新たな障がい保健福祉施策を講ずるものとする。

(概要) i、「障がい者自立支援法」を「障がいの日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(障がい者総合支援法)」とする。

ii、法に基づく日常生活・社会生活の支援が、共生社会を実現するため、社会参加の機会の確保及び地域社会における共生、社会的障壁の除去に資するよう、総合的かつ計画的に行われることを法律の基本理念として新たに掲げる。

iii、障がいの範囲(障がい児の範囲も同様に対応)「制度の谷間」を埋めるべく、障がいの範囲に難病等を加える。

iv、障がい支援区分の創設、「障がい程度区分」について、障がいの多様な特性その他の心身の状態に応じて必要とされる標準的な支援の度合を総合的に示す「障がい支援区分」に改める。

v、障がい者に対する支援、①重度訪問介護の対象拡大(重度の肢体不自由者等であって常時介護を要する障がい者として厚生労働省令でさだめるものとする。)②共同生活介護(ケアホーム)の共同生活援助(グループホーム)への一元化、③地域移行支援の対象拡大(地域における生活に移行するため重点的な支援を必要とする者であって厚生労働省令でさだめるものを加える)④地域生活支援事業の追加(障がい者に対する理解を深めるための研修や啓発を行う事業、意思疎通支援を行う者を養成する事業等。vi、サービス基盤の計画的整備、①障がい福祉サービス等の提供体制の確保に係る目標に関する事項及び地域生活支援事業の実施に関する事項についての障がい福祉計画の策定。②基本指針・障がい福祉計画に関する定期的な検証と見直しを法定化。③市町村は障がい福祉計画を作成するに当たって、障がい者等のニーズ把握等を行うことを努力義務化。④自立支援協議会の名称について、地域の実情に応じて定められるよう弾力化するとともに、当事者や家族の参画を明確化。

(施行期日) 平成25年4月1日(一部は平成26年4月1日)

高次脳機能障がい者への就労・就学支援の充実